



おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和3年3月1日第12号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子120名女子114名 計234名

有終の美を飾る

校長 金子 要一

令和2年度も残り一か月になりました。そろそろ今の学年の振り返りをする時期です。では、みなさんに聞いてみましょう。この1年で、できるようになったことは何かありますか。また、いくつありますか。考えてみてください。何もないという人はいないでしょう。学校の勉強も頑張りましたから、たくさんあるはずです。新しい漢字を覚えて読み書きができるようになったでしょうし、新しい計算方法も勉強したでしょう。このように、毎日できることは増えているのです。そして、この機会に一年を振り返りつつ、4月から始まる新しい学年では、勉強のほかにも、できそうだけれど、まだできていないことや、新しくチャレンジすることを探してみるのもいいでしょう。

さて、いつもこの時期になると、よく使われる言葉があります。それは、「有終（ゆうしゅう）の美を飾る」という言葉です。「最後までやり通して立派な成果をあげる」という意味です。先ほど、今の学年を振り返ってみましたが、まだ今年度は終わっていません。あと一か月あります。今年度中に、クラスみんなで、または、自分自身でやるべきことはないか考えてみましょう。有終の美を飾るために、今年度の学校だよりの話題をおさらいしながら三つお話します。

まず、一つ目。やるべきこと、やりたいことがあるのに、どうしてもまだできていない人は、あきらめずチャレンジし続けましょう。チャレンジとは、できるまで何度もやることです。臨時休校が終わり、学校が始まった6月の学校だよりでは、口に筆をくわえて絵と詩をかく星野富弘さんを取り上げました。また、12月末には、漫画家で「アンパンマン」の作者のやなせたかしさんのことを書きました。二人とも、一度は絶望の淵（ふち）に追い込まれながら、あきらめず前向きに進むことを選び、その後の活躍につながりました。2学期が始まった8月号では、グラスのコップ半分の水を例えに、ものごとをマイナスに捉えるのではなく、見方や考え方など発想をプラス変えようということを書きました。これからも「できないからいいや」ではなく、なんでできないのか、どこを変えればいいのかを考え、あきらめずにチャレンジしましょう。

そして、二つ目です。残り一か月、今のクラスや学年でやることに全力で取り組みましょう。さらに、あまり話す機会のなかったお友だちや、けんかをして仲直りができていないお友だちとも思い切って自分から声をかけ、仲良くなりましょう。そして、今のクラスの良い思い出を一つでも多く残しましょう。みんなが同じクラスになったのも何かの縁です。同じ年に生まれ、大久保小学校に通う地域に住んでいた仲間が集まってできたのが今のクラスです。その不思議なつながりを大切に、仲間との絆をさらに強くしましょう。特に6年生は、卒業しても大久保地区に住み続ける人が多いことでしょう。共に大久保小学校で学んだ仲間、そしてそこで作られた思い出を大切にしてください。

最後の三つ目は、12月1日発行の学校だよりに書いたことと関係します。今年お世話になった教室はきれいに使えましたか。もう一度見直してください。今の教室は先輩たちが使い、きれいにしておいてあなたたちに渡してくれたのです。4月から新しい学年の人たちが使います。「掃除の基本は隅」です。これから毎日、感謝の気持ちを持ち、ていねいに掃除をして次の学年に渡しましょう。

有終の美を意識して過ごしましょう。そして、胸を張って卒業、進級しましょう。